

五つの教育理念

一九九一年にクオリティ・スクールの宣言をしたハンティントンウッズ・スクールの校長はケイ・メントレー (Kaye W. Mentley) です。後にミシガン州の北部に位置するトラヴァース市にグランド・トラヴァース・アカデミー (Grand Traverse Academy) という別のクオリティ・スクールを創立した教育者です。

ケイ・メントレーはハンティントンウッズ・スクールの校長のときに、次のような教育理念を打ち立てています。

グラッサー・クオリティ・スクールの五つの教育理念

1. 人には基本的欲求がある。学校は子ども、保護者、教師にとって欲求充足の場である
2. 競争ではなく協力することで、最高の学習ができる
3. 強制のあるボスマネジメントではなく、リードマネジメントの環境で子どもは成功する
4. 脅したり、罰したりしないで、問題は話し合って解決する
5. 上質は自己評価を通して達成される

いかがですか。普遍性のある教育理念だと言えるのではないのでしょうか。

以下、これら五つの教育理念を中心に筆を進めていきます。まず、人間の持つ基本的欲求についてです。

△教育理念Ⅰ▽

人には基本的欲求がある。学校は子ども、保護者、教師にとって欲求充足の場である

グラッサーは基本的欲求 (Basic Needs) を、「生存」「愛・所属」「力(承認)」「自由」「楽しみ」の五つに集約しています。

「人には基本的欲求がある」と認めることは、「人は自分の内側から動機づけられる」とイコールです。たとえ外側から動機づけられているように見えたとしても、人は内側から動機づけられているのです。人には基本的欲求があることを認め、内的動機づけを主軸に教育を考えると、学校は大きく変化します。

外的コントロールを極力排除する

教育界には、「人は外側から動機づけることができる」と考える教師が少なくありません。教師の子どもへの暴力は、外側から変えようとする考え方の極みから出る結果です。罰もほうびも、外側から動機づけさせようとする試みと言えます。ほうびは罰よりも喜ばれるかもしれませんが、手放しでは喜ばれません。

ある少年サッカーチームの話です。監督は熱心にチームを育成しようとしているのですが、なかなかうまくいきません。子どもたちがチームの仲間たちと協力しようとしません。ゴールを決めるのが無理な状況でも、自分でゴールを決めようとシュートする子が多く見られます。子どもたちに話を聞いてみると、ゴールを決めるとお小遣いがもらえるとのことでした。

ほうびは動機を変えてしまうことがあります。チームとしていい試合をして勝利を得ることもよりも、自分がゴールを決めてほうびのお金をもらうことが重要になっていたのです。監督は保護者に、子どもがゴールを決めてもほうびはあげないようお願いしました。

グラッサーは当初、「刺激(S)ー反応(R)理論」を使って選択理論を説明していました。その後、外側から人を変えようとするものを「外的コントロール心理学」と命名し、外的コントロールとの関係で選択理論を説明するようになりました。クオリティ・スクールでは、外的コントロールを極力排除しようとします。「人は基本的欲求によってもともと動機づけられているので、その動機づけの障害となるものを取り除くことをしなければならぬ」と考えたわけです。

外的コントロールの表れとして、人は「人間関係を壊す七つの習慣(七つの致命的習慣)」を使います。その七つとは、「批判する」「責める」「文句を言う」「ガミガミ言う」「脅す」「罰する」「ほうびで釣る」です。これらは、残念ながら教育界や子育ての場面で始終使われているのが現状ではないでしょうか。これらのうち一つでも使う人は、外的コントロールを使っていると言えます。

外的コントロールを極力排除して、「人は内側から基本的欲求によって突き動かされている」と、内的コントロールを主軸に置くことで、学校は大きく変化するのです。

基本的欲求をお互いが持っていることを知る

グラッサー・クオリティ・スクールでは、基本的欲求「生存」「愛・所属」「力(承認)」「自由」「楽しみ」を満たすためにはどうしたらよいかを考えます。子どもたちの基本的欲求はもとより、教師も同様の欲求を持っていますし、保護者も基本的欲求を持っています。

クオリティ・スクールでは、学校で子どもたちに選択理論の概念が教えられ、ホームワークとして家に帰ってそれを親や家族に説明することが求められています。家族から質問を受けてわからないことがあれば、学校で教師に聞き、それをまた家族に説明します。教えることは、学ぶ最高の機会となるのです。耳で聞いて学ぶ確率は10パーセントですが、教えることで学ぶ確率は90パーセントになると言われています。

基本的欲求は人間関係のなかで満たされるものです。ですから、子どもと家族の間でも良好な人間関係を築くことが重要となり、このようなホームワークが出されるわけです。さらに興味を持つ保護者のために、選択理論の学習会が学校で開催されます。

五つの基本的欲求については第1部でも解説していますが、大切なことですので、ここでも簡単に整理しておきましょう。

① 「生存」の欲求

身体的欲求を「生存」の欲求と呼びます。食べる、飲む、眠る、体温調整等という基本的なこ